

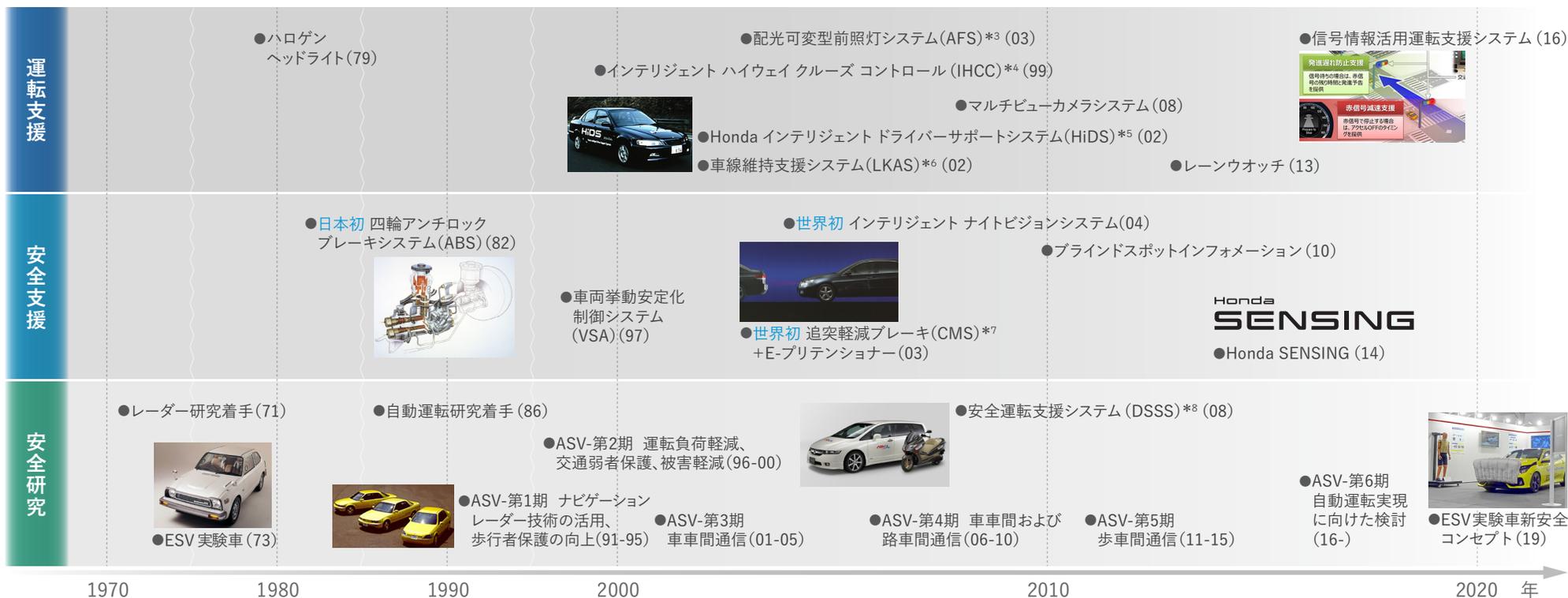
世界に先駆けた取り組みで、数々の安全運転支援技術を実用化。

Hondaは、安全運転支援技術の研究・開発に、世界に先駆けて取り組んできました。1971年には、現在の衝突軽減ブレーキにつながるレーダーブレーキの研究に着手。以降、米国のESV*1プロジェクトや、運輸省(現・国土交通省)主宰のASV*2プロジェクトに積極的に参加しながら技術を養い、世界初の追突軽減

ブレーキをはじめとする多くの機能をいち早く実用化してきました。そして2014年、さまざまな機能を統合した安全運転支援システム「Honda SENSING」を発表。軽自動車を含むすべてのHonda車への標準装備化を推進し、2020年には国内新車販売台数*の95パーセント以上にまで適用率を高めました。

※ 普通乗用車と軽自動車の合計。

■ Honda 安全運転支援技術のあゆみ



*1 Experimental Safety Vehicle, 実験安全車。 *2 Advanced Safety Vehicle, 先進安全自動車。 *3 Adaptive Front Lighting System。 *4 現在のアダプティブクルーズコントロール(ACC)。 *5 Honda intelligent Driver Support System, 写真は公道テスト車両(00)。
*6 Lane Keeping Assist System。 *7 Collision Mitigation brake System, 現在の衝突軽減ブレーキ(CMBS: Collision Mitigation Braking System)。 *8 Driving Safety Support Systems, 安全運転支援システム。